

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	45	宿毛	高等学校	課程	定
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 県西部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○将来の夢や希望を実現するために努力することができる生徒を募集します。 ○学校生活を大切に、前向きに活動することができる生徒を募集します。 ○ルールやマナーを守り、他者を思いやって行動することができる生徒を募集します。 ○様々な活動や他者とのかわりを通して、社会的な自立を目指す生徒を募集します。 ○職業観や勤労観を持ち、仕事と学業を両立することができる生徒を募集します。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○「働きながら学ぶ」ことができる普通科の夜間部定時制高校で、就労者にも配慮した時間帯で教育課程を編成します。併修制度利用により3年間の卒業も可能です。 ○理解度に応じた丁寧な指導を行い、基礎・基本を重視した授業を展開します。 ○総合的な探究の時間を通して、自己肯定感を育み、社会的自立について追求します。 ○一人一人の適性に応じた進路実現に向けて、望ましいキャリア観を育む指導を行います。 ○豊かな人間性や多様な他者と協働する力を育成するために様々な体験活動を実施します。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の定着を図ります。 ○正しい判断基準や規範意識をもち、主体的・自律的な態度で行動する力を育成します。 ○礼儀やマナーを大切に、社会人として必要なコミュニケーション能力を育成します。 ○互いの人格を尊重し、相手の立場で物事を考え、他者と協働する力を育成します。 ○探究的な学習や活動などを通して、自己有用感を育み、社会に貢献する態度を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	3つの指標のうち2つは達成していないが、年度末に向けて中間評価より数値が向上していることから、ほぼ達成という評価でよろしい。高校での学びが、単に高校卒業の資格取得や学び直しだけでなく、将来の可能性を広げるためのものであるということを認識できるようにしてほしい。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	学校内という限られた空間では、挨拶などが自発的にできるようになり成長が見える。地域のイベントで発表するなど、自信のつく取組ができている。定時制の生徒にとって重要な育成項目であるので、さらに授業や学校行事等の充実を図ってほしい。
【チーム学校】 評価 【 A 】	進路保障100%の目標達成は評価できる。また、不登校経験のある生徒が登校できていることも評価できる。学力向上の指標とも関係するが、将来の夢や目標をもてるよう努力してほしい。不祥事の件数は0件であり、働き方においても特に問題なく業務を遂行できている。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①「学校の授業は、よく理解できている」 1回目70%→目標:80%以上 ②「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」 1回目53%→目標:70%以上 ③「物事に取り組み際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 1回目65%→目標:70%以上	○クロームブック、「すらら」などICTを有効活用した個別最適な学びの充実 ○基礎学力定着のため学校オリジナル基礎学力検定の実施 ○総合的な探究の時間、進路LHで4年間を見通した進路探究 ○キャリア・パスポートの有効活用 ○家庭との欠席連絡等の徹底	①70.6% ②52.9% ③64.7% C ②の否定的意見が約50%を占め、「学習することが面白いから勉強している」の否定的意見が約70%であることが課題である。	○探究的な学びへの授業改善 ○総合的な探究の時間の指導方法の改善 ○キャリアパスポートの活用を見直し ○学校オリジナル基礎学力検定と「すらら」の効果的な活用	①78.6% ②50.0% ③71.4% B ②中間評価時点より大きく伸びた。 ②高校卒業の資格を取ることに満足している生徒が多く、キャリア教育が単発的なものになっている。「学ぶ意義」「働く意義」を考えさせる視点を取り入れたい。 ③将来設計などの長期的な取組については課題が残っている。	授業改善やそれに伴う評価の見直しについて、「学力」の再定義が必要である。そのうえで取組内容や評価指標を決定する。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」 目標:80%以上 ②人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している。 目標:80%以上	○仲間づくり活動、遠足、生徒会活動など主体的・協働的な体験活動の充実 ○生活体験発表会への参加 ○人権ロングホームの充実	①82.4% ②100% A 2つの評価指標とも目標に達しているが、授業あるいは学校行事等でグループ活動や他学年とのコミュニケーションなど、協働することが難しい。	○総合的な探究の時間における課題探究活動の指導の徹底 ○生徒会活動、遠足、環境美化活動の企画運営の見直し ○教育活動全体を通して社会性の育成を意識した指導、支援の強化	①92.9% ②100% A ①②ともに目標は達成したが、生徒支援委員会や教員間情報共有の場面の情報はこの結果に乖離しており、指導支援に苦慮しているため、詳細に分析し、あらゆる教育活動の企画運営に反映させる必要がある。	現在行っている各種教育活動は、目的と手段が入れ替わっている状態である。各学年末に、あるいは卒業までにどこまで身に付けさせたいのか具現化し、認識を共有する協議の場が不可欠である。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	①「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」 目標:75%以上 ②地域・関係機関との連携回数 目標:4回以上	○総合的な探究の時間における地域探究 ○地域とのかわりかを持つ環境美化活動(プランター配布)の実施 ○校外清掃ボランティアの実施	①47.1% ②3回 C 環境美化活動や地域の清掃活動は行っているが、地域貢献活動やボランティア活動などを行っていない生徒が約8割を占め、活動の目的を理解させる必要がある。	○活動の目的理解等の事前指導と振り返りなどの事後指導の徹底 ○地域と関わる機会の創出	①71.4% ②5回 B ①中間評価より大きく上昇したが、取組内容との因果関係は不明瞭。 ②活動回数としては達成しているが、地域と関わる効果が出るような内容にしなければならぬ。	総合的な探究の時間、地域連携活動の充実を図るため学習プログラムの見直しを図る。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	①「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」 1回目59%→目標:70%以上 ②「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」 1回目89%→目標:90%以上	○総合的な探究の時間を核とし、各教科での学びを結び付け、言語能力や情報活用能力を育成 ○各教科の学びの中で社会の出来事に関する情報を収集し関心を高める ○様々な場面で考えをまとめたり、協議したり、発表する機会を設定	①58.8% ②88.2% B 各教科や総合的な探究の時間において育成したい力の指導はされているが、社会との関連付けがやや弱いと思われる。	○教科横断的な授業の研究・試行 ○授業と関連させた総合的な探究活動の指導	①57.2% ②92.9% B ①単発的に時事問題や社会情勢について取りあげている。全体でつきたい能力を意識した取組になっていない。それは総合的な探究の時間の評価規準や授業評価(定期試験等)に表れており、今後ベクトル合わせが必要である。	まずは各教科で育成したい資質能力をどう伸ばしていくか、シラバスの見直し、評価規準の見直しなど授業改善の研究に着手する。合わせて教科横断的な学習のキャリア開発を検討する。

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○「学び直しの場」「働きながら学べる場」として、多様な学習歴を持つ生徒や生活環境にある生徒を支援する。 ○社会的自立、個に応じた就労を支援する。	①「学校生活は充実している」 1回目82%→目標:85%以上 ②「将来の夢や目標を持っている」 1回目70%→目標:75%以上 ③卒業後の進路(就職)保障 目標:100%	○生徒情報の共有、相談体制の充実 ○SCやSSWを交えた生徒支援会 ○健康面談や保護者面談の実施 ○外部機関との連携 ○特別支援研修など校内研修の充実 ○個に応じた就労支援 ○はたサポートステーションとの連携	①82.4% ②70.6% ③50% B QUや学校生活アンケートからも学校生活への不安は少ない。保護者との連絡を密にとり、きめ細かい支援ができている。新たに定例職員会ごとの支援委員会を実施している。	○医療機関と連携し、特別支援研修など校内研修の実施	①78.6% ②64.3% ③100% B ①②③ともに目標達成していないが、生徒支援については各種アンケート結果を丁寧に分析し、きめの細かい支援に繋げている。また、外部機関との連携を密にし、多様な生徒への対応に取り組んだ。	きめ細やかな支援体制は継続したうえで、登校できれば良い、卒業するだけでよいという考えから、もう一歩進める支援とキャリア教育における新たな目標を設定する。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	目標 ①校内研修の実施回数:各学期1回 ②不祥事防止委員会の実施回数:年3回 ③風通しの良い職場環境づくりのための衛生委員会の実施:月1回	○不祥事案などの情報共有の徹底 ○個人情報記載された文書の発送や事務処理は2人以上で確認 ○何でも話し合える職場環境づくり	①不祥事防止の校内研修2回 ②不祥事防止委員会月1回開催 ③衛生委員会6回 チェックリストなどの実施と教員間のコミュニケーションが行われている。	○不祥事防止の研修、不祥事防止委員会の実施を継続	①不祥事防止の校内研修3回 ②不祥事防止委員会月1回 ③衛生委員会月1回 不祥事防止研修やチェック機能の強化に取り組み、ミスは発生していない。	「不祥事」とは何か、を考える機会をもつ。生徒に対する不適切な発言(職員室内)や業務に対する不誠実な姿勢など、職責や当事者意識の薄い教員の意識改革を図る。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○年休、特別休暇等の取得奨励 ○業務負担の公平化と業務の効率化	目標 ①年休、特別休暇等の取得率の向上 ②業務内容を見直し、少人数や夜間勤務による負担軽減	○閉庁日の設定(夏季休業中に3日間) ○勤務セレクトの有効活用 ○健康管理など、日々の声掛け ○ストレスチェックの実施 ○業務の見直し ○各種会議のペーパーレス化	①定期考査期間や夏季休業中に積極的に取得できている。特に夏季休暇の取得率はほぼ100%、閉庁日を3日間設定 ②定時制は校務分掌など一人一役で行うことが多いが、声をかけあって一人にしない体制で業務が遂行されている。	○年休が取りやすい環境づくり ○やりがいのある業務内容の追求	①②ともに所期の目的を達した。 A ①②ともに目標達成しているが、日常的に連携が密であり、意識疎通もスムーズであるので、年休を取得しやすい心理的安全性が保たれている。業務負担を分かち合う意識が浸透している。	教員間で「働き方改革」についての認識に相違がある。個人の課題であるところが大きい。認識合わせが組織の機能不全を防ぐためには不可欠であるとする。